

## 復活節第五主日

2012.5.6

### ヨハネ 15・1-8

今日の福音は、私たちに馴染み深いぶどうの木のとえです。私たちに馴染み深いと言いましたが、今日の福音のぶどうの木のとえが、私たちに馴染み深いものとなっているとすれば、それは、私たちがカトリック信者となって、ミサの中で何度もこの福音のみことばを聴いてきたからです。このみことばを基にして作られた「キリストはぶどうの木 わたしはその枝の一つ」という聖歌をミサの中で歌ってきたからです。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」という今日の福音のみことばを、私たちに呼びかけておられるイエスのみことばとして、素直な心で受け止めることが出来ているとすれば、それは、私たちがすでに、このように呼びかけておられるイエスと結ばれた者たちとなっているからです。

先週の日曜日、私たちは「私はよい羊飼いである。」と言われるイエスのみことばを聴きました。私たちはこのみことばを、私たちを導かれるイエスのみことばとして聴いたはずです。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」という今日のみことばも、「わたしはよい羊飼いである。」という先週のみことばも、それを素直に受け止めることが出来ている私たちがいるとすれば、そのこと自体が、私たちがイエス・キリストを信じる者たちとなって、その信仰によってイエスと結ばれた者たちとなっている証なのです。このような信仰を持たずに、聖書を開いてこのようなことばを読んだとしても、私たちは今このミサの中で味わっているような感覚をもってこれらのみことばを受け止めることは出来なかつたにちがいありません。聖書の中のイエスのみことばは、それが、私たちに向けて語られているみことばとして受け止められるためには、聖書の中のイエスと私たちとを結んでいる、相互に通いあう親しさの関係を必要としているのです。聖書の中のイエスが、私たちにとって特別なお方となっていなければ、聖書の中のイエスのみことばは、私たちの心に届くことはないのです。「わたしはよい羊飼いである。」というイエスのみことばは、イエスによって導かれているという経験なしには、私たちにとって意味のないことばとなってしまうことでしょう。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」というみことばも、私たちがイエスと結ばれているという実感が持てなければ、私たちの心に届くことはないことでしょう。聖書の中のイエスのみことばが生き生きと私たちの心に届くためには、私たちがすでにその中に生きてい

私たちは洗礼を受けてカトリック信者になる前にも聖書を読んでそこに書かれていることを知っていたかもしれませんが。けれども、聖書の中のイエスのことばを自分に向けて語られているみことばとして受け止めることを学んだのは、私たちが教会と出会ったからです。ミサに参加して、聖書の中のイエスのことばを自分たちに向けられたイエスの呼びかけとして受け止めている人々の雰囲気の中に身を置くことによって、それまでとは違った聖書の受け止め方が出来るようになったからです。そのようにして、私たちは聖書の中のイエスと出会ったのです。そのようにして、私たちは聖書の中のイエスのことばを自分たちに向けられたみことばとして受け止めるキリスト教の信仰の中に招き入れられたのです。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」と、今日もここに集っている私たちに呼びかけておられるイエスのみことばを、自分たちに向けられているイエスのみことばとして受け止めるということが信仰ということなのです。信仰によって生かされるということは、今日もこのミサの中で「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」と呼びかけておられるイエスのみことばを自分に向けられたみことばとして受け入れ、このみことばによってイエスが示してくださった、イエスと私たちを結んでいる関係に目覚めてゆくということです。信仰を生きるとは、イエスが開いてくださった、このようなイエスとの関係の中に生きるということなのです。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」このイエスのみことばを私たちに向けられたみことばとして受け止めることが出来る時、私たちは私たちに向けられているイエスの愛のまなざしの中にある私たち自身を見出してゆきます。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」このみことばに示されているイエスの愛の眼差しの中にある私たちが、イエスのための私たちなのです。イエスのみことばを受け入れるということ、すなわち、イエスを信じるということは、私たちが私たち自身をどう思っているかということを超えて、イエスの私たちへの絶対的な愛に目が開かれて行くということです。私たちは洗礼の恵みに与って、イエスを信じる者たちとなることによって、ぶどうの枝がぶどうの木の一部であるように、イエスのいのちによって生かされる者たちとなっているのです。私たちのいのちの中にイエスのいのちが流れているのです。イエスを信じ、イエスのみことばによって生かされるとは、今日も新たにこのことに気付き、新たな心でそれを受け入れて行くということです。

そのために、私たちはミサを必要としているのです。私たちは今日もミサに集っている、イエスを信じる者たちの信仰共同体である教会において、イエス

を信じる信仰に招き入れられたのです。私たちはイエスを信じて生きる人々の信仰共同体である教会の信仰を自分も受け入れることによって、洗礼を受けてカトリック信者となったのです。その信仰の中で「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」と言われるイエスのいのちと結ばれたのです。イエスが保証してくださる、イエスとのこのような関係の中に生きる者たちとされたのです。私たちが洗礼を受けてカトリック信者となったということは、そのようなことであつたはずです。けれども、私たちが生きる日常の日々の中で、この信仰を保ち続けることがいかに難しいことであるか痛感しているのも事実です。そのような日々を生きる私たちの中に、それでもなお、イエスを信じる信仰が生きているとするなら、ミサはイエスを信じて生きようとする私たちにとって必須なものとなるはずです。私たちは私たちが生きる日常の日々の中の、このミサの場において、「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」と言われるイエスのいのちに結ばれている自分を見出すことが出来るからです。

私たちはこのミサにおいて、イエスのいのちを受けてイエスと一体となって、父なる神がいとおしみ育ててくださる、神の愛が注がれているぶどうの木となっているのです。私たちがカトリック信者となることが出来、その信仰を今なおこうして生きることが出来ているのは、イエスのいのちと結ばれた私たちが父なる神にとってかけがえのないぶどうの木となっているからです。

今日の福音のイエスのみことばは、イエスの目に映っているこのようなイエスと私たちの関係と、イエスと結ばれた私たちに注がれている父なる神の愛を私たちに示しているのです。「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」というイエスのみことばを受け入れること出来、そのイエスのみことばどおりに私たちがイエスと結ばれた信仰の中に生きることが出来る時、その愛する御子イエスをこの世にお遣わしになった父なる神の愛の御計画は実現しているのです。神がその愛する御子を遣わすことによって植えられたぶどうの木は豊かな実を結んでいるのです。私たちの主イエス・キリストがその十字架の死と復活によって私たちに与えてくださった豊かないのちは、私たちに受け止められているのです。そのいのちの中に、そのいのちに結ばれて、私たちのぶどうの木は豊かな実を結ぶべく成長してゆくのです。「わたしを離れてはあなたがたは何も出来ない」というイエスのみことばは真実です。私たちの信仰は私たちの力によるものではないのです。ひたすらに、イエスのみことばのもとにとどまることこそが、私たちの信仰のいのちの源なのです。イエスが示してくださったこの信仰のいのちを生きることが出来るために、今日もイエスのいのちの体である聖体をこの身にいただきしたいと思います。そすることによって、私たちは、私たちがイエスのいのちに結ばれたぶどうの木としてくださった父

なる神の愛に応え、父なる神に栄光を帰すことが出来るのです。このような信仰を生きる者たちとされた感謝のうちに、イエスのいのち結ばれた者たちとして、私たちの主イエスとともにこのミサをともにおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高